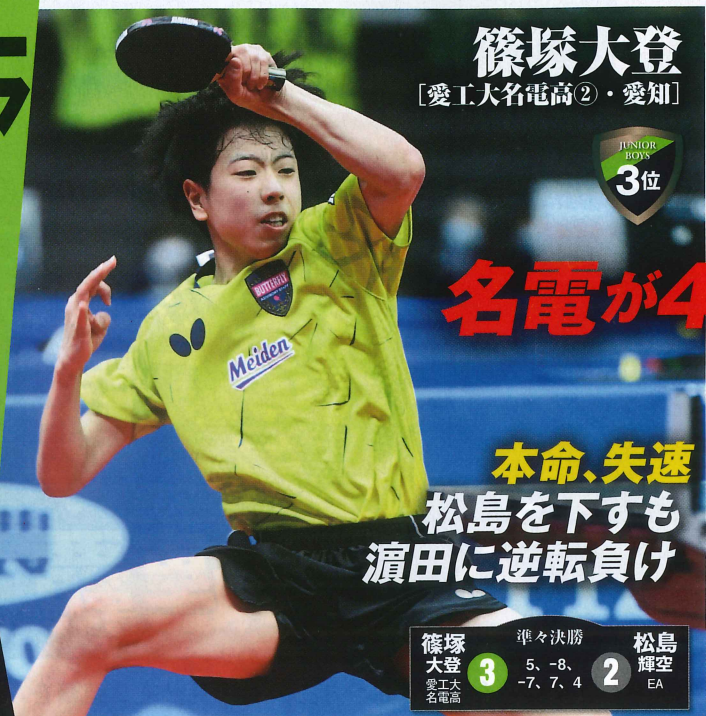


天才的なボールタッチとクレバーな戦術に、Tリーグでの経験が加わってさらにパワーアップしている篠塚は、ジュニア男子の本命に名を挙げられていた。注目の松島にはバック対バックを避け、積極的にフォアで攻撃して逆転勝ちを収めるも、同級生の濱田の猛攻の前に屈した。



篠塚大登
[愛工大名電高②・愛知]

名電が4強独占

本命、失速
松島を下すも
濱田に逆転負け

準々決勝
篠塚大登 3 松島輝空 2
愛工大名電高 5、-8、-7、7、4 EA



**長身から打ち降ろす
強烈バックドライブ
伏兵が大仕事**

岡野俊介
[愛工大名電高②・愛知]

「岡野を知っていますか？ この結果を誰が予想しましたか？」と愛工大名電の今枝一郎監督も驚いた3位入賞。長身から放たれるハンマーバックドライブが鋭く突き刺さり、東山高の星、一般でも松島輝空を下した。次の夏のインターハイの団体メンバー入りに向け、大きなアピールだ。

BEST-8



松島輝空
[EA中①・神奈川]



星優真
[東山高②・京都]

注目の松島はベスト8でストップ。男子最年少優勝がかかっていたが、篠塚の戦術変更に対応できなかった



谷垣佑真
[愛工大名電高②・愛知]



高橋航太郎
[実践学園高①・東京]

持ち前の技術の幅にパワーが加わった。優勝した濱田にゲームカウント2-1の8-4から逆転負けを喫した

BEST-16



加山雅基
[愛工大名電中③・愛知]
新名(明德義塾高)に勝利。次は個性を磨きたい



中村煌和
[愛工大名電中③・愛知]
篠塚と激戦を展開。バックの技術の幅がほしい



三浦裕大
[濠洲館高②・石川]
動きが速く、左特有のコース取りがうまい選手



萩原啓至
[愛工大名電中③・愛知]
中学生ながら、明豊高のエース・田原を下す活躍。高橋にはうまく打たされた



葛西啓功
[静岡学園高②・静岡]
YG サービスからのバックハンドを武器に、初のベスト16入りを果たす



芳賀世蓮
[鶴岡東高②・山形]
足を使った攻めのプレーが光るパワーヒッター



原田春輝
[希望が丘高②・福岡]
コースが読みにくいカットマン。松島の粘りに屈す



鈴木瑩
[静岡学園高②・静岡]
一般で宇田を下した注目株。攻守のバランスが良い

※ EA = JOC エリートアカデミー

BOYS
ジュニア / ボーイズ

濱田一輝
[愛工大名電高②・愛知]

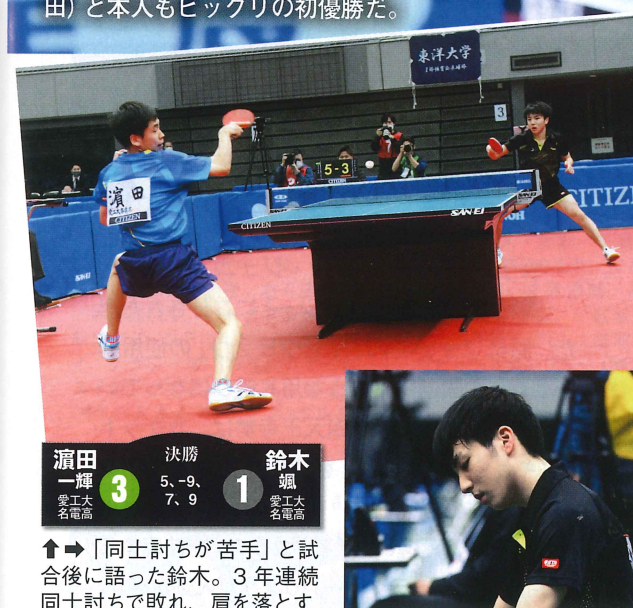
JUNIOR BOYS
優勝



高校卓球界に君臨する愛工大名電が圧倒的な選手層の厚さを見せ、ベスト16に8人がランクイン。その中で濱田が抜け出し、5回戦から4連戦の同士討ちを最後まで足を止めずに打ち切って、栄光をつかんだ。

濱田は祖母・美穂さんが世界女子複優勝、祖父・慎吾さんは全日学3位、父・裕和さん(旧姓:村上)と母・華奈子さんは全日本混合複2位という実績を持つ卓球界のサラブレッド。全日本ジュニアは平成4年に父・裕和さんも制しており、親子二代での優勝となった。

鍛えてきたという自慢の体力は、何試合やってもプレーが崩れない。同時に強気のメンタルで戦い抜いたことが勝因だろう。「優勝はちょっと信じられない」(濱田)と本人もビックリの初優勝だ。



濱田一輝 3 決勝 5、-9、7、9
愛工大名電高

鈴木瑩 1
愛工大名電高

↑「同士討ちが苦手」と試合後に語った鈴木。3年連続同士討ちで敗れ、肩を落とす

幼い頃からスケールの大きい前中陣からの両ハンドを武器に戦ってきた鈴木。下がりすぎる傾向があったが、自分の思い描いていたプレーにようやく体がついてきたか。今大会の鈴木は下がってから、中陣からのパワーボールで逆襲し、得点を量産。頂点には届かなかったが、そのポテンシャルは疑いようがない。

**混戦抜け出しハマダがキタ！
強化した体力を武器に
攻め切った初V**

鈴木瑩
[愛工大名電高①・愛知]

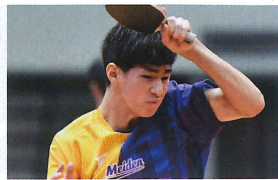


**スケールの大きいプレーに
体がついてきた
実力発揮も準Vに落胆**

PLAYER'S DATA

ジュニア男子

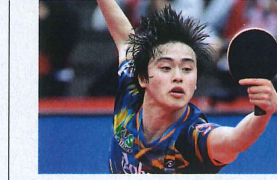
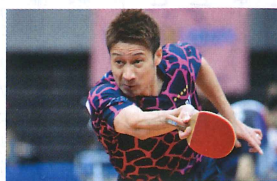
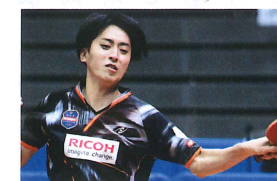
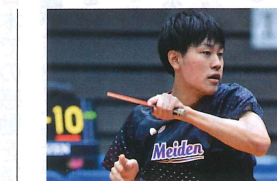
●ラケット(グリップ) ▲フォア面ラバー(厚さ) ★バック面ラバー(厚さ) ■シューズ

RANKING 4 Shunsuke Okano 岡野俊介  愛工大名電高・愛知/静岡県出身、16歳。愛工大名電中卒。20年ジュニアベスト32。16年全日本カデット複3位。左S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/ビスカリア (FL) ▲★バタフライ/テナジー 05 (特厚) ■アシックス/アタックドミネイト FF2	RANKING 3 Hiroto Shinozuka 篠塚大登  愛工大名電高・愛知/愛知県出身、17歳。愛工大名電中卒。19年インターハイ準優勝。左S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/張繼科 ALC (FL) ▲バタフライ/ディグニクス 80 (特厚) ★バタフライ/テナジー 05 (特厚) ■ミズノ/レゾライン マッハ	RANKING 2 Hayate Suzuki 鈴木颯  愛工大名電高・愛知/岩手県出身、16歳。愛工大名電中卒。20年ジュニア6位。19年全中準優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/オリジナル トゥルーカーボン (FL) ▲★ドニック/ブルー ストーム Z1 ターボ (MAX) ■ドニック/ワルドナー FLEX3	RANKING 1 Kazuki Hamada 濱田一輝  愛工大名電高・愛知/高知県出身、17歳。愛工大名電中卒。18年全中準優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/張繼科 ZLC (FL) ▲バタフライ/テナジー 05 (特厚) ★バタフライ/ディグニクス 05 (特厚) ■アシックス/アタックエクスカウンター 2
RANKING 8 Kotaro Takahashi 高橋航太郎  実践学園高・東京/福島県出身、16歳。実践学園中卒。19年全中3位。16年全日本ホープス3位。右S裏・裏/ドライブ型。●ニッター/アコースティックカーボン (FL) ▲★ニッター/ファスターク G-1 (特厚) ■ミズノ/ウエーブメダル 6	RANKING Yuma Hoshi 星優真  東山高・京都/宮城県出身、17歳。向洋中卒。15年全日本カデット複3位。左S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/張本智和 インナーフォース ZLC (FL) ▲バタフライ/テナジー 05 (特厚) ★バタフライ/ディグニクス 05 (特厚) ■バタフライ/レゾライン リフォネス	RANKING 6 Sora Matsushima 松島輝空  EA・神奈川/京都府出身、13歳。星槎中在学。20年ジュニア準優勝。18年全日本カデット13歳以下優勝。左S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/特注 (FL) ▲バタフライ/ディグニクス 09C (特厚) ★ディグニクス 80 (特厚) ■バタフライ/レゾラインピライト	RANKING 5 Yuma Tanigaki 谷垣佑真  愛工大名電高・愛知/兵庫県出身、17歳。愛工大名電中卒。18年ジュニア3位。19年インターハイ3位。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/ビスカリア (FL) ▲バタフライ/ディグニクス 05 (特厚) ★バタフライ/テナジー 05 (特厚) ■アシックス/アタックドミネイト FF2

PLAYER'S DATA

一般男子

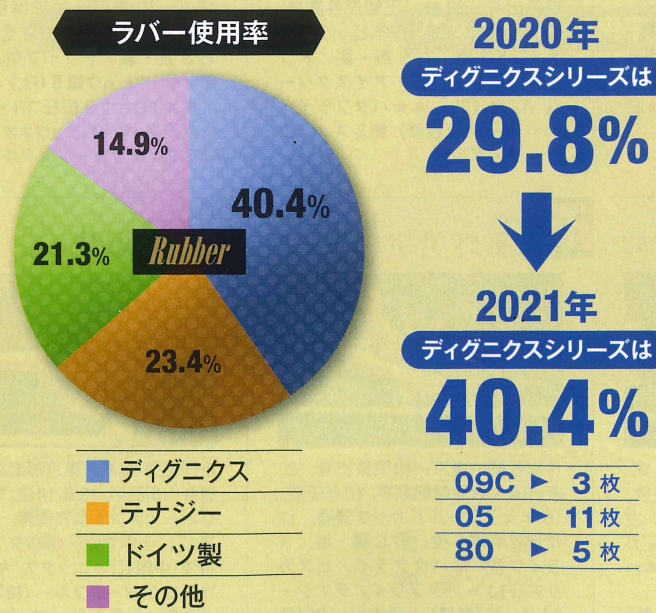
※用具は全日本で使用したもの。出身校のあとの試合名のない戦績は、全日本(昨年度)のもの(18年度までは年度表記。昨年度は「20年」表記)。EA=JOC エリートアカデミー ●ラケット(グリップ) ▲フォア面ラバー(厚さ) ★バック面ラバー(厚さ) ■シューズ ※一般の部の名前横の[]数字は、ランク入りの通算回数。

RANKING 4 Yuta Tanaka 田中佑汰 [初]  愛知工業大・愛知/熊本県出身、20歳。愛工大名電高卒。19年全日学優勝。19年全日学選抜準優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/張本智和インナーフォース SUPER ZLC (FL) ▲★バタフライ/ディグニクス 05 (特厚) ■アシックス/アタックエクスカウンター 2	RANKING 3 Masaki Yoshida 吉田雅己 [7]  栃木県スポーツ協会・栃木/北海道出身、26歳。愛知工業大卒。15年複優勝。20年3位。15年世界卓球代表。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/ビスカリア (FL) ▲バタフライ/ディグニクス 09C (特厚) ★ディグニクス 80 (特厚) ■バタフライ/エナジーフォース XI	RANKING 2 Masataka Morizono 森蘭政崇 [4]  BOBSON・東京/東京都出身、25歳。明治大卒。17年3位。17年世界卓球複優勝。左S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/張本智和インナーフォース ALC (FL) ▲バタフライ/テナジー 05 (特厚) ★ニッター/ファスターク G-1 (特厚) ■ミズノ/ウエーブファングプロ	RANKING 1 Mizuki Oikawa 及川瑞基 [3]  木下グループ・鹿児島/宮城県出身、23歳。専修大卒。20年11位・複優勝。18・19年全日学優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/ビスカリア (FL) ▲バタフライ/ディグニクス 09C (特厚) ★ディグニクス 05 (特厚) ■バタフライ/レゾライン マッハ
RANKING 8 Tonin Ryuzaki 龍崎東寅 [5]  明治大・東京/新潟県出身、22歳。EA/帝京高卒。18年9位。20年13位。19年全日学選抜3位。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/インナーフォースレイヤー ZLC (FL) ▲★バタフライ/テナジー 05 (特厚) ■バタフライ/レゾライン リフォネス	RANKING 7 Tomokazu Harimoto 張本智和 [4]  木下グループ・神奈川/宮城県出身、17歳。日本大学高在学。17年優勝。18年複優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/張本智和インナーフォース ALC (FL) ▲バタフライ/ディグニクス 05 (特厚) ★バタフライ/テナジー 05 (特厚) ■バタフライ/レゾライン リフォネス	RANKING 6 Satoshi Aida 英田理志 [初]  愛媛県競対・愛媛/鳥取県出身、27歳。朝日大卒。15年USオープン3位。15年全日本社会人複3位。20年サフィール国際オープン優勝。右S裏・裏/カット型。●ヤサカ/特注 (ST) ▲ヤサカ/ラクザ Z (厚) ★ヤサカ/翔龍 (厚) ■ミズノ/ウエーブドライブ 8	RANKING 5 Koki Niwa 丹羽孝希 [12]  スヴェンソン・東京/北海道出身、26歳。明治大卒。12年単・複優勝。16年複優勝。左S裏・裏/ドライブ型。●VICTAS/丹羽孝希ウッド (FL) ▲VICTAS/V>15 Extra (MAX) ★VICTAS/TRIPLE Double Extra (MAX) ■アシックス/アタックドミネイト FF2
RANKING 12 Maharu Yoshimura 吉村真晴 [8]  愛知ダイハツ・茨城/茨城県出身、27歳。愛知工業大卒。11年優勝。16年リオ五輪団体銀メダル。17年世界卓球混合複優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/特注 (FL) ▲★バタフライ/ディグニクス 05 (特厚) ■バタフライ/レゾライン マッハ	RANKING 11 Kakeru Sone 曾根翔 [2]  愛工大名電高・愛知/兵庫県出身、18歳。愛工大名電中卒。20年10位。ジュニア5位。18・19年世界ジュニア代表。右S裏・裏/ドライブ型。●VICTAS/ZX-GEAR OUT (FL) ▲★VICTAS/V>15 Extra (MAX) ■アシックス/アタックブレードライト 4	RANKING 10 Kentaro Miuchi 御内健太郎 [3]  シチズン時計・東京/大阪府出身、31歳。早稲田大卒。16年14位。17年全日本社会人ベスト8。右S裏・裏/カット型。●バタフライ/特注 (ST) ▲バタフライ/ディグニクス 80 (特厚) ★スティガ/パーティカル 20 (特厚) ■ミズノ/ウエーブドライブ EL	RANKING 9 Yuya Oshima 大島祐哉 [6]  木下グループ・神奈川/京都府出身、26歳。早稲田大卒。16年14位・複優勝・混合複3位。18年準優勝。20年9位。17年世界卓球複優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●ミズノ/フォルティウス FT Ver.D (FL) ▲★ミズノ/Q5 (特厚) ■ミズノ/ウエーブドライブ EL
RANKING 16 Kaii Yoshida 吉田海偉 [13]  東京アート・東京/中国出身、39歳。青森短期大卒。04・05年優勝。06・07年準優勝。13・16年3位。09年世界卓球ベスト8。19年全日本社会人準優勝。右P裏/ドライブ型。●バタフライ/吉田海偉 ▲バタフライ/テナジー 64 (特厚) ■バタフライ/レゾライン リフォネス	RANKING 15 Hokuto Koriyama 郡山北斗 [初]  リコー・東京/岡山県出身、24歳。専修大卒。13年ジュニア3位。17年全日学3位。17年全日学選抜4位。左S裏・裏/ドライブ型。●ニッター/特注 (FL) ▲ニッター/ファスターク G-1 (特厚) ★ニッター/特注 (特厚) ■ミズノ/ウエーブドライブ EL	RANKING 14 Takuya Jin 神巧也 [5]  T.T 彩たま・埼玉/青森県出身、27歳。明治大卒。14年準優勝。17年ビッグトーナメント準優勝。19年スロベニアオープン3位。右S裏・裏/ドライブ型。●ヤサカ/馬林エキストラスペシャル (FL) ▲★ヤサカ/翔龍 (特厚) ■ミズノ/ウエーブドライブ NEO2	RANKING 13 Hiromu Kobayashi 小林広夢 [初]  愛工大名電高・愛知/東京都出身、18歳。愛工大名電中卒。16年全日本カデット14歳以下3位・複準優勝。左S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/レボルディ CNF (FL) ▲バタフライ/ディグニクス 05 (特厚) ★ディグニクス 80 (特厚) ■バタフライ/レゾライン リフォネス

全日本の男子ランカーの

用具考察

ついに覇権を握った『ディグニクス』『テナジー』をひっくり返す



今年の全日本男子ランカー(一般・ジュニア)においては、『ディグニクス』シリーズの使用率が非常に高くなっている。昨年と比べると、10%超アップし、ついに長年トップに君臨していた『テナジー』シリーズをシェアで追い抜いた形だ。加えて、『テナジー』の人気もまだまだ高く、2位のシェアをキープ。ランカー使用ラバーの63%がバタフライという絶大な強さを見せている。

一方で、ドイツ製ラバーは昨年の29.8%からややダウン。『ファスタークG-1』や『V>15Extra』など、根強い人気のラバーはあるが、『ディグニクス』に対抗するような新しいラバーが求められるだろう。

その他には『翔龍』や『TRIPLE』などの中国製粘着ラバーが入っている。このカテゴリーは今後さらに伸びていくと予想される。